

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02424

研究課題名(和文) インドネシアの高等教育機関内における宗教施設の教育的役割

研究課題名(英文) The Educational Role of the Religious Facilities in Higher Education Institutions in Indonesia

研究代表者

中田 有紀 (Nakata, Yuki)

東洋大学・アジア文化研究所・客員研究員

研究者番号：30553771

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、インドネシアの高等教育機関における宗教施設の教育的役割を明かにするため、大学内のモスクでの学習活動の実態の解明を試みた。その結果、ムスリムの教職員や学生が大半を占めることが多い一般系の大学のモスクでは、学生や地域社会の人々向けのイスラームの基礎的な学習の場を提供するとともに、大学モスク組織間のネットワークを構築して、大学モスクでの活動の充実を図る試みがあることを明らかにした。こうした大学内のモスクの活動の充実の背景には、1980年代以降の社会全体のイスラーム化に伴い、人々のイスラーム学習への関心の高まりが大きく関わっていたことも明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、インドネシアにおける高等教育機関の宗教施設は、宗教的儀礼の場というよりも、むしろ学内外の人々が宗教に関する知識を学び、共有する場としての役割を果たしてきたことを明らかにした。一般系の高等教育機関において、イスラーム学習の機会が重視されており、教員や学生による自発的な試みがなされていることを明らかにした本研究は、ムスリムが大多数を占める国の高等教育機関におけるイスラームの実態解明に寄与するものといえる。

研究成果の概要(英文)：This study investigates the actual conditions of learning activities in mosques in Indonesian institutions of higher education. The results revealed that mosques in general universities, where many of the faculty members and students are Muslims, have enhanced the activities of university mosques by providing basic Islamic learning opportunities for students and people in the surrounding community, and by building networks among university mosque organizations. It became clear that this enrichment of the activities of university mosques was largely due to people's growing interest in Islamic learning in the process of Islamization of society since the 1980s.

研究分野：比較教育学

キーワード：高等教育 インドネシア イスラーム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

インドネシアの学校制度は、幼稚園から高等教育機関まで、教育文化省管轄の一般教育機関と宗教省管轄のイスラーム教育機関から成る二元的な教育制度を形成してきた。しかし近年、イスラーム学校は伝統的宗教教育を、一般学校は国民教育を提供するという明確な区別は難しくなりつつある。高校段階までの一般学校とイスラーム学校のカリキュラムは統合の傾向にあるためである。例えばイスラーム学校では宗教科目に限らず一般科目の教育が多く行われ、イスラーム高等教育機関においては一般の学問も提供する総合大学化が進んだ。他方で、教育文化省管轄の一般学校におけるイスラーム化も著しい。小学校から高校におけるイスラーム服着用の容認や「地域科」という地域の文化や職業に関する知識を扱う科目を活用してイスラーム関連の学習を行うことも可能である。しかし、一般系の高等教育機関における教育についてのイスラーム化の実態については、ほとんど明らかになっていない。

インドネシアを含むアジア諸国のイスラーム教育についての成果はヘフナー (Hefner) らによる研究 (Schooling Islam, Princeton University Press, 2007.) があり、インドネシアの二元的教育制度の統合の傾向やインドネシアのイスラーム教育に関する研究として、西野節男・服部美奈編『変貌するインドネシア・イスラーム教育』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター、2007年がある。また、インドネシアの高等教育機関のうち、とくに教育文化省管轄の一般高等教育機関におけるイスラーム教育については、シャヒディン (Syahidin) らによる研究 (Pelaksanaan Pendidikan Agama Islam di Perguruan Tinggi Umum, Departmen Agama RI, 2002) などもある。

しかし、大学内モスクの活動の教育的役割については十分な検討はなされてこなかった。そこで、本研究では、高等教育機関内のモスクにおける教授・学習の特性を明らかにし、インドネシアの高等教育機関におけるイスラームの実態の解明に努めた。

2. 研究の目的

本研究は、人口の約 90% をムスリム (イスラーム教徒) が占めるインドネシアの高等教育機関内の宗教施設における教育的役割を実証的に解明するため、教育文化省管轄の一般高等教育機関と宗教省管轄のイスラーム高等教育機関のそれぞれのキャンパス内に設置されたモスクにおける教授・学習の営みと、それぞれの高等教育機関の教員による教育・研究・社会貢献との関わりを比較・考察することを目的とした。

インドネシアの複数の高等教育機関におけるモスクでの教授・学習活動に関する比較研究を通して、インドネシアの高等教育機関におけるイスラームの実態を解明する本研究は、ムスリムが大半を占める国や地域の高等教育機関における学問および教育環境を考察するうえでの、重要な知見を提供し得るものである。

3. 研究の方法

本研究では、インドネシアの高等教育機関内に設置されたモスクで提供されるさまざまな教授・学習活動を対象とし、その実態を考察した。

そのため、本研究では、以下の 3 点を実行した。

(1) 文献の収集・整理・分析においては、イスラーム世界の教育および近年のインドネシア社会・政治・教育・法関連の研究レビューを行うこと、(2) インドネシアの高等教育政策や宗教教育およびモスクの設置・活動に関する政策や法改革の状況の把握に努めた。

(2) 海外調査 (大学内モスクの教授・学習活動の観察、インタビュー調査、資料の収集) は、2018 年度 (2019 年 2 月)、2019 年度 (2019 年 9 月) に実施し、インドネシアの主要な国立一般大学および国立イスラーム大学での調査を行い、バンドン、ソロ、スマランの国立の一般系の大学と、バンドン、スマランの国立イスラーム大学への訪問調査を行い、各大学のモスクの活動や教育の責任者らとの面談、資料収集等を行った。

(3) 研究成果の発表として、2021 年 6 月の日本比較教育学会 (オンライン開催) および 9 月のアジア比較教育学会 (オンライン開催) などにおいて、研究成果の発表を行った。

4. 研究成果

研究の主な成果

本研究の過程で、イスラームの法や教育、行政関連の専門家の育成を主とするイスラーム高等教育機関よりも、一般系の高等教育機関内の宗教施設であるモスクの方が、学内外のムスリムのためのイスラーム学習や関連する活動が多様に展開されていることが明らかとなった。そのため、一般系の国立大学に、当初の予定よりも多く訪問した。当初は予定していなかった大学の宗教施設への訪問も可能となり、本研究では、国立の一般系高等教育機関内のモスクの活動の傾向を把握することができた。

(1) 大学モスクの主な諸活動について

ムスリムの教職員や学生が大半を占めることが多い一般系の大学のモスクでは、学内の教員らが主体となって、学生や地域社会の人々向けのイスラームの基礎的な学習の場を提供しており、大学モスク組織間のネットワークを構築して、大学モスクでの活動の充実を図る試みがあることを明らかにした。

大学のモスクの位置づけ

バンドン工科大学などの一部の大学では、モスク組織は、大学とは別の財団が運営しており、財源確保やモスクでの活動は、大学の運営から独立している。しかし、多くの大学では、大学内の一施設としてモスクが位置付けられている。その場合、大学モスクの建設や増改築は、学長に判断権が与えられている。ムスリムが大多数を占める大学において、教職員および学生の多くが必要とするモスクは重要な学内の施設のひとつとされていた。

大学内のモスクの活動は、大学モスク組織のもとで行われる。モスクの活動の総責任者は学長であり、モスクの運営や活動の指導に当たる教員は学長から任命される。大学内のモスクにおいて、増改築費や活動費は、大学から一部支出される場合もあるが学外からのモスク利用者や学内の教職員からの寄付による場合もある。大学内のモスクの施設拡大を行った際、政府を通して助成を受けた例があるが、それは大学内の教育施設として、モスク内の施設の増築などが認められ、規模拡大が実現したケースだった（詳細は中田 2019：123-124）。

大学内モスクの主な活動

(1) 宗教実践や行事に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の礼拝に関すること ・イスラーム祝祭日の儀式や関連する諸活動の準備 ・ザカート等による資金を活用した活動（困窮者や被災地への支援など）
(2) イスラームに関するさまざまな学習に関する活動	<ul style="list-style-type: none"> ◆学内外に向けた学習活動 <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム講話会や学習会、クルアーン暗誦学習など ・未婚女性のための学習会 ・子どものためのイスラーム学習など。 ◆主として学内向けの学習プログラム <ul style="list-style-type: none"> 学生による活動（クルアーンの読誦や暗誦、イスラーム研究会など） 大学教育と関連のある学習プログラム（新生向けにイスラーム学習など） ◆学外者によるモスク内施設の活用 <ul style="list-style-type: none"> モスク内の多目的ホールや講堂・学外関係者も利用申請が可能。 モスク内での宿泊学習などの実施。

出典：中田（2019:124）より。

大学モスクにおける諸活動

上記の表は、実際の大学内のモスクの組織構成や活動内容について、本研究で明らかにしたものであり、複数の一般系の国立大学の状況をもとに作成したものである。

大学内のモスクの組織構造は、各大学ともに、モスク組織委員長、副委員長のもとに、複数の活動部門がある。モスク組織委員長を学長とし、そのもとで、教員らが各部門の責任者として名前を連ねている。個々の活動においては、大学教員や学生、そして学外から雇用したモスク職員らが担当している。モスクの施設内の警備などのために、専属職員が雇用されるケースもある。モスク内の活動は、主として、表に示したように、宗教実践や行事に関する活動とイスラームに関するさまざまなレベルの教育活動から成っている。教育活動は、モスク組織が主催し、学内外に広く開かれた学習会として開催されるものと、学内の学生たちによるイスラーム学習クラブのような学生活動ユニット（UKM:Unit Kegiatan Mahasiswa）などが行う活動、その他、大学の必修科目である宗教教育との関連で行う活動や学外の教育組織による活動が行われる。

大学モスクにおいて、クルアーン暗誦学習を行う例もある。クルアーンの暗誦に関連する学習は、かつては、プサントレン（イスラーム寄宿塾）などのイスラームを専門に学ぶ教育機関で行われてきた。しかし近年では、大学内外からクルアーン暗誦者を迎え、関心のある学生たちが、クルアーン暗誦学習に取り組み、全国規模のコンテストに参加する者もいる（中田 2019:129-130。中田 2021:37-38）

大学モスク間のネットワークの存在

一般系の大学のモスクは、大学モスク組織間で、個々の活動の充実を図るためネットワークを形成している。AMKI (Asosiasi Masjid Kampus Indonesia, (アムキ：インドネシア・キャンパス・モスク協会), 以下 AMKI と記す) は、各高等教育機関のモスクの活動に従事する教員や学生が主体となって大学間の交流や協力関係を形成してきた。2004 年に結成され、バンドン工科大学のサルマン・モスクに本部を設けている。AMKI が目指すヴィジョンとして、高等教育機関のキャンパスにおけるモスクが、国家指導者候補のための人格教育 (Pendidikan Karakter) の中心となることなども含まれている。AMKI を通してネットワークを構築することで、大学内のモスクは、単なるムスリムの教職員や学生のための宗教儀礼の場でなく、学内外で必要とされるさまざまなニーズや課題に対応し得る場として機能することを目指す試みがあることがわかった

(中田 2019 : 131)。

(2) 一般系の高等教育機関において、イスラームについて学ぶ機会が提供されている背景

一般系の国立大学において、学内のモスクでのイスラーム学習活動が充実している背景についても、本研究を通して明らかにした(中田 2021:33 - 44)。以下の2点が主要な背景といえる。一つは、インドネシアの国民教育における宗教の位置づけが関係している。インドネシアでは、小学校、中学校、高校だけでなく、高等教育機関においても、宗教教育は必修科目とされている。したがって、一般系の高等教育機関においても、信仰する宗教学習は大切であり、ムスリムの学生は、イスラーム宗教教育の時間を通して、信仰を持つことの大切さや教えを学ぶ機会を持つ。

二点目は、2000年以降に生まれた現在の大学生たちは、幼いころからクルアーン学習に親しむ機会があったことである。1970年代以降、地域のモスクでの学習を通して次世代を育成する試みには、主として1950年代 - 60年代生まれの世代が関わり、1980年代後半以降、彼らが主体となって、モスクでの子どものためのクルアーン学習を組織化したことは、一般学校に通う子どもたちにも、放課後に基礎的なクルアーン学習の機会を提供することにつながった。現在、一般系の高等教育機関で学ぶムスリムの学生たちのうち、クルアーンの暗誦学習など、イスラームの理解を深めることへの関心が高い者がいることは、こうした歴史的背景が関係しているといえる。また、1950年代 - 1960年代生まれの世代で、大学外のモスクの学習指導に関わった者の中には、一般系の大学のモスクの運営や学習活動に積極的に関わっている者がいることも、本研究を通して明らかにした。

(3) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト、今後の展望

近年のインドネシアでは、経済的・社会的安定を背景として、教育機会は飛躍的に拡大し、大学を含む高等教育機関の就学率は30%を超えた。大学内のモスクは、学内の大多数を占めるムスリムの教職員や学生のための礼拝施設としての機能だけでなく、大学内外の人々のための学習の場である。地域社会のさまざまなニーズに対応することや、学生がイスラームの教えを正しく理解するための機会を充実させる傾向が、複数の国立の一般系の大学において共通して見られた。

本研究では、イスラーム教徒が大半を占める国の高等教育機関のイスラームの実態を解明することができた。今後は、インドネシアにおける高等教育機関での他の宗教の教育や自発的な学習活動にも着目することで、インドネシアの高等教育機関における宗教に関する教授・学習の全体像の解明に努めることを試みたい。

引用文献

中田有紀「インドネシアの高等教育機関におけるモスクの役割と可能性 一般系国立大学の事例から」『地域文化研究』No.20, pp.119-137, 2019年12月.

中田有紀「インドネシアの高等教育機関におけるイスラーム学習の充実とその背景 - 一般系国立大学の取り組みに着目して - 」『アジア文化研究所研究年報 2020年度』第55号, 33-44, 2021年1月.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中田有紀	4. 巻 55
2. 論文標題 インドネシアの高等教育機関におけるイスラーム学習の充実とその背景 - 一般系国立大学の取り組みに着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 (東洋大学) アジア文化研究所研究年報 2020年 第55号	6. 最初と最後の頁 33 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00012445	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 中田有紀	4. 巻 14
2. 論文標題 書評 小野仁美著『イスラーム法の子ども観 - ジェンダーの視点でみる子育てと家族』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア教育	6. 最初と最後の頁 95 - 99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32302/ajiakyouiku.14.0_95	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 中田有紀	4. 巻 20
2. 論文標題 インドネシアの高等教育機関におけるモスクの役割と可能性 一般系国立大学の事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域文化研究	6. 最初と最後の頁 119 137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中田有紀	4. 巻 57
2. 論文標題 独立後のインドネシアにおける大学創設と国家との関わり - ジョグジャカルタの二つの大学と「場」の象徴性に着目して -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 157 178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5998/jces.2018.57_157	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 中田有紀
2. 発表標題 インドネシアにおける大学内モスクの多様な役割と可能性 一般系国立大学の事例から
3. 学会等名 日本比較教育学会第55回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中田有紀
2. 発表標題 インドネシアの高等教育機関における宗教学習の取り組み 一般系の高等教育機関におけるイスラーム教育とモスクでの活動から
3. 学会等名 東南アジア教育研究フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中田有紀
2. 発表標題 インドネシアの高等教育機関とモスクの関わり
3. 学会等名 東南アジア教育研究フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中田有紀
2. 発表標題 インドネシアの高等教育機関における宗教施設の役割
3. 学会等名 地域文化学会月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中田有紀
2. 発表標題 インドネシアの高等教育機関におけるイスラーム学習の展開 1960年代後半以降の社会・政治状況との関わりに着目して
3. 学会等名 日本比較教育学会第57回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 YUKI NAKATA
2. 発表標題 Background of Islamic Learnings at Indonesian University Mosques
3. 学会等名 THE 12TH CESA BIENNIAL CONFERENCE KATHMANDU 2021 (ONLINE) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------